

総務・産業常任委員会 合同管外視察報告

9月8日から10日に総務・産業常任委員会の合同で実施した管外視察について報告します。

産業常任委員会

あ・ら・伊達な道の駅



あ・ら・伊達な道の駅

平成26年度「重点道の駅」35箇所に選定された

施設で、太平洋と日本海を結ぶ国道47号沿いであり、1日平均1万人の来場者がある。売上は年間16億円。中でも姉妹都市の北海道当別町が本社の「ロイズ」は4億円でロイズ全販売店で1位。ロイズのソフトクリームを目的に仙台からドライブで訪れる方も多い。地元の素材を使った6種のカレ

ーバイキングも千円と魅力的。総菜も40種類と豊富でランチタイムには行列ができていた。農産物直売所は、200名以上の生産者が地元の野菜や

米、味噌などの加工品を出荷。地域のスーパー感覚での利用もある。正面にあるステージでは各種のパフォーマンスが行われる。また、災害時の拠点としての機能も整備されつつあり、国道の予算で非常用発電機も整備されている。

施設の運営は、第3セクターで指定管理施設となっている。指定管理料はゼロ。逆に市へ出資配当金を15%、約1500万円支払っている。今後は指定管理料を貰い、使用料を市へ支払う意向。3セクとして市へ利益の還元を考えられている。今年、宙ドーム神岡のリニューアル工事

が始まる。道の駅を目的地とした観光客の増加も見込まれる。地域が丸となって取り組むことが重要と感じた。

全国和牛能力共進会



和牛共進会審査の様子

飛騨市から4区系統雌牛群に2頭が出品された。

会場に整列した飛騨牛は他県に比べてやや小さめではあるが、色つやもよく丁寧に育てられているのがよく分かった。ハ

ンドラーと牛の信頼関係も築かれていた。飛騨市は九州地域に比べ繁殖牛が数十分の1と少ない。その理由として、畜産業の後継者不足がある。「飛騨牛」ブランドを守るため、市は畜産振興対策を考え、次回全共では上位入賞を目指してほしい。

(委員長 前川 文博)

総務常任委員会

9月8日から10日にかけ管外視察を挙げる。訪問先は、東北大学ニュートリノ科学研究センター、全国和牛能力共進会、あ・ら・伊達な道の駅、震災遺構の旧荒浜小学校とその付近である。

ニュートリノ

科学研究センター



センターで井上教授と

東北大学は神岡町内で宇宙物理学と地球物理学の研究をしている。ノーベル賞受賞で、東京大学の研究が注目されているが、東北大学も研究者を配置し、日々研究に取り組んでいる。飛騨市が地元としてどのように応援・支援ができるかというところに力を置きたい。また、子どもたちに夢を持ち、追い続ける素晴ら

しさも知ってもらいたい。

「飛騨市からも東北大学へ」と井上邦雄教授が語った。ぜひ、市民にも東北大学へ興味や関心を持ってもらえる取り組みもしたい。

あ・ら・伊達な道の駅



にぎわう農産物直売所

も応用可能と感じた。現状分析し、しっかりとした目標を定め、支障を列挙し、支障や困難さを分割し、解決できるものを一つでも増やし、目標達成を図ることが大切である。雇用の創出や地域の防災拠点としての機能を目指し、次のステージに向け進化を遂げようとする姿は、とても参考になった。

震災遺構旧荒浜小学校



津波の襲った教室内

旧荒浜小学校とその周辺を見て、自然に対していかに人間は無力で非力なのか感じた。「自分の命は自分で守る」を合言葉に、更なる防災対策の必要性和広報が重要であることを学んだ。

視察で得た知見を市政に活かしていきたい。

(委員長 高原 邦子)